

第二世代バイオエタノール生産実証事業（NEDO 助成・委託事業）開始

及び 5 号抄紙機の設備更新に伴う生産体制の見直しのお知らせ

当社は、このたび、株式会社 Biomaterial in Tokyo（本社：福岡県大野城市、代取締役社長：泉可也）と提携し、持続可能な航空燃料（SAF； Sustainable Aviation Fuel）の原料となる第二世代バイオエタノール（※）の生産実証事業を開始しますのでお知らせいたします。

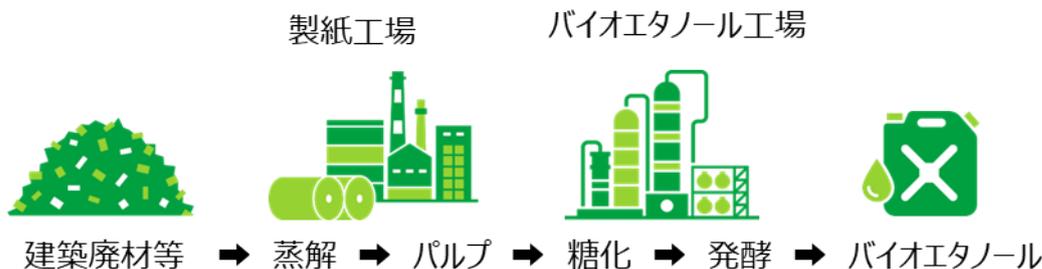
本実証事業は国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の助成および委託を受け、実施します。

※ 第二世代バイオエタノールは、サトウキビやトウモロコシなど食料資源を原料とする第一世代バイオエタノールに対し、木質バイオマスなど非可食資源を原料としたバイオエタノールを指す。CO2 削減効果のある SAF として使用されるには、その原料や燃料転換プロセスなど一定の要件を満たし、CORSIA（Carbon Offsetting and Reduction Scheme for International Aviation）適格燃料として認証を取得する必要がある。

2050 年のカーボンニュートラルの実現に向け、国際航空分野では SAF の導入を各国において義務化する動きがあり、世界的に SAF の需要が高まる中、日本でも国産原料を用いた SAF の安定調達に向けた技術開発の取組みが急務となっています。

大興製紙は、建築廃材などの未利用バイオマス資源から生成するクラフトパルプを原料として、産業用微生物による自製酵素を用いたバイオエタノール生産技術の開発・実証を行い、2027 年までに年間 2 万 KL のバイオエタノール生産を目指します。バイオエタノールは、販売先の燃料事業者において SAF に転換され、航空燃料として使用される予定です。

【本事業のイメージ】



なお、当社は、本実証事業開始と並行して、事業ポートフォリオの見直しを行います。本実証事業用の設備を導入するとともに、5 号抄紙機の設備更新を行い、老朽化した 1 号・2 号抄紙機を停機して 5 号・6 号抄紙機へ生産を集約することで、品質および生産性の向上とマテリアルバランスの最適化を図ります。

当社は、環境問題への対応を経営の重要課題の一つとして位置付けており、今後も環境負荷低減につながる製品の開発や再生可能エネルギーの利用拡大など多様な取り組みを行ってまいります。